

令和2年度アイランドキャンパス事業実施報告書

奄美大島の魅せる方言「新たな方言グッズ」開発について



令和3年2月22日～2月26日

四国大学

地域教育・連携センター 峪口 有香子

1. 事業のねらい

日本各地で、方言が土産物に利用されたり、商品の名前に方言が使われたり、また方言で書かれた観光ポスターやパンフレットが作られたりするのを目にする。このような方言の使用は、方言本来の使い方とは異なる。方言は今、見直され、経済価値さえ持ちはじめたといえる。そこで、交流人口の拡大および奄美大島内の地域の魅力を創生するため、方言グッズの提案・開発を行うことを目指している。

今後、魅せる方言として「全国方言資料展」を島内で開催し、「方言」の持つ特性を巧みに活かし、地域らしさ、方言ならではの面白さや表現力をさらにアピールしていくことを目的とする。

2. 実施期間

令和3年2月21日（日）から26日（金）にかけて、奄美大島に訪れ、5泊6日で事業を実施した。また、新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、学生はオンラインによる参加となった。すべてリモートにて、聞き取り調査（2月22（月））と活動成果報告・意見交換会（2月25日（木））を実施した。

表1 取組内容一覧

取組内容	実施日	備考
事前打ち合わせ	令和3年2月17日	Zoomを利用
オンラインインタビュー	令和3年2月22日	Zoomを利用
成果報告会準備	令和3年2月22日～24日	メール、Zoomを利用
成果報告会 及び意見交換会	令和3年2月25日	Zoomを利用

3. 参加者

参加者は、以下の31名であった。

峪口 有香子（四国大学 地域教育・連携センター 講師）

臼井 正樹（四国大学 経営情報学部 教授）

竹内 博（四国大学 経営情報学部 名誉教授）

萩原 八郎（四国大学 経営情報学部 教授）

岸江 信介（奈良大学 文学部 教授）

河内山 蒼竜（四国大学 文学部日本文学科1年）

中原 直翔（四国大学 文学部日本文学科1年）

芦和 晴佳（四国大学 文学部書道文化学科1年）

丹生 朱音（四国大学 文学部書道文化学科1年）

川田 希（四国大学 国際文化学科1年）

山中 菫（四国大学 国際文化学科 1年）
 角 美咲（四国大学 生活科学部人間生活科学科 1年）
 徳本 優香（四国大学 生活科学部人間生活科学科 1年）
 山下 穂乃佳（四国大学 生活科学部人間生活科学科 1年）
 遠藤 陽太（四国大学 経営情報学部経営情報学科 1年）
 笹田 洸希（四国大学 経営情報学部経営情報学科 1年）
 中山 雅仁（四国大学 経営情報学部経営情報学科 1年）
 山岡 渉太（四国大学 経営情報学部経営情報学科 1年）
 CAO SY NAM（四国大学 メディア情報学科 1年）
 島内 悠衣（四国大学 メディア情報学科 1年）
 安丸 朋樹（四国大学 メディア情報学科 1年）
 伊藤 諒哉（四国大学 経営情報学部経営情報学科 2年）
 和田 小百合（四国大学 経営情報学部経営情報学科 2年）
 北内 真珠（四国大学 経営情報学部経営情報学科 3年）
 溝内 京奈（四国大学 経営情報学部経営情報学科 3年）
 入船 真由（奈良大学 文学部 2年）
 下田 萌香（奈良大学 文学部 2年）
 川上 大輔（奈良大学 文学部 2年）
 池田 桃輔（奈良大学 文学部 2年）
 藤川 潤也（奈良大学 文学部 2年）
 池田 美緒（奈良大学 文学部 2年）

4. 実施概要

(1) 1日目（2月21日）

午前の便で伊丹空港から奄美空港へ渡った。レンタカーを利用し移動した。奄美大島の泥染めを体験し、奄美大島の歴史・文化の概要を学んだ。その後、翌日にひかえているオンラインインタビューに備えて、インタビュー先の事前チェックおよび機材等の準備を行った。

(2) 2日目（2月22日）【オンラインインタビュー】

オンラインインタビューは、計4回行った。詳細は、下記表2参照のこと。

表2 オンラインインタビュー実施一覧

実施時間	実施場所	被調査者
①10:00～11:00	龍郷町役場	龍郷町「円・安木屋場」集落
②12:00～13:00	荒波のやどり	(一社) E' more 秋名
③16:30～17:30	AiAi ひろば	(一社) あまみ大島観光物産連盟

④18:00~19:00	奄美博物館	しまゆむた伝える会
--------------	-------	-----------

① 午前10時より、龍郷町役場にて、龍郷町「円・安木屋場」集落の方々に集まっていた
 だき、オンラインインタビューを行った。円集落から4名、安木屋場集落から3名、地域お
 こし協力隊の方2名ご参加いただいた。オンラインインタビューは、調査項目に従い、順に
 インタビューすることができた。具体的には、龍郷町の隠れた観光スポットや、残したい方
 言についてお聞きすることができた。

② 正午12時より、龍郷町秋名集落に移動し、荒波のやどりにて、(一社)E' more 秋名の
 村上氏より、オンラインインタビューを行った。オンラインインタビューは、調査項目に従
 い、順にインタビューすることができた。具体的には、龍郷町の魅力や、島の独自の文化に
 ついて触れることができた。

③ 午後16時半より、名瀬のAiAiひろばにて、(一社)あまみ大島観光物産連盟、事務局
 長境田氏より、オンラインインタビューを行った。オンラインインタビューは、調査項目に
 従い、順にインタビューすることができた。具体的には、DMOが担っている取組や、これ
 から目指すことなど、コロナ禍で観光客が激減している中、今後どのように展開していけば



図1 インタビュー龍郷町役場



図2 インタビュー荒波のやどり

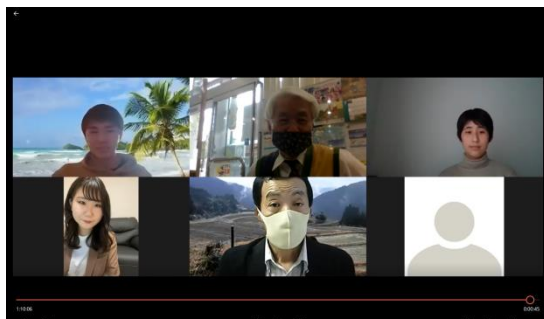


図3 インタビューAiAiひろば

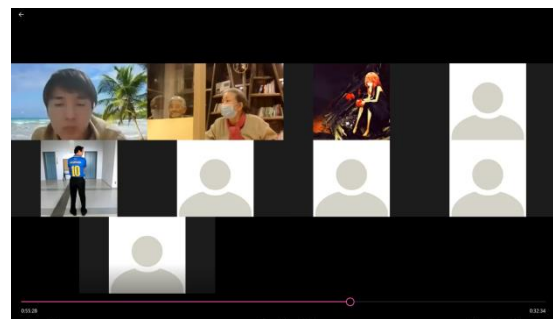


図4 インタビュー奄美博物館

いいかなどお話を伺うことができた。また、「あまんゆウェア」について新しく考案できれ

ばとのことだった。

④ 午後18時より、奄美博物館にて、しまゆむた伝える会の4名の方々、会長保氏、日置氏、蘭氏、鈴木氏、奄美市教育委員会文化財政策調整監兼文化財課長久氏にお集まりいただき、オンラインインタビューを行った。オンラインインタビューは、調査項目に従い、順にインタビューすることができた。まず、奄美大島の方言談話をご披露いただき、ことばの多様性について学ぶことができた。

島唄には、方言が使われており、島唄を教えるためには、方言指導が必要であるということを知ることができた。

(3) 3日目(2月23日)

オンラインインタビューで得られた情報から、各グループにわかれアイデア出しからパワーポイントデータの作成、発表準備を行った。

(4) 4日目(2月24日)

オンラインインタビューで得られた情報から、各グループにわかれアイデア出しからパワーポイントデータの作成、発表準備を行った。

(5) 5日目(2月25日)【成果報告会および意見交換会】

午後13時半より、オンライン成果報告会および意見交換会を行った。名瀬公民館会場では、(一社)あまみ大島観光物産連盟事務局長境田氏、しまゆむた伝える会、会長保氏、日置氏、蘭氏、鈴木氏にお集まりいただいた。

龍郷町荒波のやどり会場では、龍郷町「円・安木屋場」集落の方々、(一社)E' more 秋名の村上氏、龍郷町役場の長谷場氏にお集まりいただいた。

学生は、Zoomを使用し、オンラインにて成果報告発表および意見交換会に参加した。意見交換会では、名瀬公民館会場より、島唄の披露があり、島唄の説明および魅力についてお教えいただき、多いに盛り上がった。

表3 成果報告会および意見交換会プログラム

1. チェックイン	①開会挨拶・事業説明(峪口) ②講師・参加者より一言 ③参加の申し合わせ・ジェスチャーなど確認(峪口)
2. インタビュー成果報告	Aグループ 奄美市 しまゆむた伝える会 Bグループ 奄美市 あまみ大島観光物産連盟 Cグループ 龍郷町(円・安木屋場集落、・いも一れ秋名)
3. 事例紹介	岸江先生からの方言を利用した地域創生の事例紹介
4. 交流	全体質疑応答および意見交換会

5. チェックアウト	①参加者より一言 ②講師より一言 ③閉会挨拶（臼井）
6. 事務連絡	終了後アンケート実施



図5 成果報告会 Zoom



図6 意見交換会 Zoom



図7 成果報告会@名瀬公民館会場



図8 意見交換会@名瀬公民館会場

(6) 6日目（2月26日）

最終日、鹿児島空港経由して伊丹空港へ到着し、高速バスにて徳島へ帰着した。

5. 事業を通しての学び・成果

今回は、コロナ禍ということもあり、すべての行程において、Zoomを活用し、オンライン形式で、インタビュー、成果報告会および意見交換会を実施した。短時間でのインタビュー調査および短期間でのまとめ作業だったため、成果報告の準備が難しいところもあった。新型コロナウイルス感染状況の拡大に伴い世界の観光業が停滞するなか、奄美大島の観光業界も同じ状況下であり、今後どのように地域振興に向けての可能性を見出していくのかは、今後の重要な課題であるといえる。

今回のアイランドキャンパス事業では、四国大学から教員4名、学生20名、奈良大学から教員1名、学生6名の計31名が参加した。龍郷町や奄美市の人々との交流を通じて

奄美大島への魅力を改めて感じた学生が多かった。また今回のインタビューを通して、奄美大島の中での観光産業の魅力や、奄美大島のことばに触れることができ、学生自らが課題を見つけ、課題解決のために学びを深めたことは大変意義深いと思われる。

3日目、最終日には学生が中心となり、これまでの各会場での交流会の総括を行った。学生にとっては非常に貴重な経験となったと思われる。

以上を通して、来年度には、観光振興の方策について、再検討を加え、「方言」の持つ特性を巧みに活かし、地域らしさ、方言ならではの面白さや表現力をさらにアピールし、具体化していきたいと思う。

今回、コロナ禍にあってリモートでの交流会しかできなかったが、来年度の夏季休業中の期間を利用して、実際に学生と奄美大島各地を訪れ、地元の方々と直接交流できることを期待したい。

6. 謝辞

短期間での調査と成果報告会および意見交換会実施において、多くの方にご協力いただいた。また、本事業実施にあたっては多くの市役所および役場関係者の皆様、調査に協力していただいた皆様にお世話になった。この場を借りて、ここにあらためて皆様に心よりお礼申し上げる。

以上